

【授業科目】成人看護学実習Ⅰ（急性期の看護）

Adult Nursing PracticumⅠ

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
吉川 尚美、杉崎 一美、豊田 妙子、 吉田 和枝、小寺 直美		3 年次 後 期	必 修	3	1 3 5	実 習	あり	巻末 掲載	否
授業概要 （内容と進め方）及び 課題に対するフィードバック 方法		授業概要／成人看護学実習Ⅰ（急性期の看護）では、成人期にある人の健康課題に対してライフサイクルを加味し、生命の危機状態や周手術期にある人（以下、急性期にある対象者）とその家族の疾患・病態治療を理解し、看護援助に必要となる基本的知識・技術・態度を修得し看護実践能力を養うことを目標とする。そこで本実習では、急性期にある対象者を受け持ち、個別的な看護過程の展開、カンファレンスでの議論等を通して急性期における看護援助方法・役割、チーム医療について考えを深める。各病棟だけでなく、受け持ち患者の手術室・ICU・リハビリテーション室での実習及び、救命救急センターでの見学実習も行う。 実習最終日には看護サマリーを作成し、実習の学びを発表・共有する。 課題に対するフィードバック方法／日々の実習内容について、口頭での指導および提出された記録類にコメントをつけて返却する。＊実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ		本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」の達成に寄与している。							
到達目標 （履修者が到達すべき目標）		① 急性期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面を把握し、総合的に説明できる。 ② 急性期にある対象者に対して、根拠に基づき病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 ③ 急性期にある対象者に必要な倫理的配慮したうえで、個別的看護実践と評価ができる。 ④ 保健医療チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 ⑤ 急性期にある対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べることができる。							
時間外学習に必要な内容・時間		※詳細については、実習要項を参照してください。							
授業計画		・実習期間は、令和5年9月19日～令和6年3月1日のうち15日間 ・実習時間は、原則として、9：00～17：00 ※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。							吉川、杉崎 豊田、吉田 小寺
評価方法 評価基準		※詳細については、実習要項を参照してください。							
学生への助言等		急性期にある対象者に対し、呼吸・循環・栄養状態、検査値など膨大な情報収集します。それらを瞬時にアセスメントし、看護実践につなげていきます。対象者の日々の変化にあわせて、情報収集・アセスメント・看護計画の修正を行い、患者中心の看護を提供するために、個人およびグループの能力を最大限に発揮してください。常に、全出席を前提としていますので、体調管理に留意してください。							